

# 豊かな人間性と社会性の育成をめざして ～地域との連携を踏まえて～

岡山県立邑久高等学校

## 1 本校の概要

本校は、邑久郡の中心にあり、創立80余年の歴史を持つ、邑久郡唯一の高等学校である。1学年は4クラス、生徒数469名の普通科高校で、生徒の通学範囲は邑久郡・備前市・和気郡・赤磐郡に及んでいる。進路状況は、4年制大学が約33%、短期大学が約20%、専修学校が約32%、就職等が約15%である。地域住民には卒業生が多く、地域と連携するうえでの条件に恵まれている。

## 2 推進地域としての取組

地域の社会福祉協議会など関係各機関と協議を図ったり、小・中・高校の教職員の合同研修会を開くなど、相互の連携を深めるとともに、「邑久町地域教育力・体験活動推進協議会」などを通して情報交換を行った。その結果、小・中・高校生と地域住民が一体となった花いっぱい運動を実施するなど、大きな成果をあげることができた。

## 3 学校支援委員会の組織・運営

### (1) 学校支援委員会

#### ア 構成メンバー

社会福祉協議会会長、青少年育成センター所長、学校評議員、学校医、  
PTA会長、PTA副会長、校長、教頭、担当教諭

#### イ 役割

企画・実践へのアドバイスや支援

### (2) 校内体制

学校の活性化を図るため校務分掌に新設した「学校改革推進室」がこの事業を担当し、全教員で1年生を指導・支援する態勢をとった。

## 4 事業の全体計画

### (1) 活動のねらい

本校では、平成13年度から、学校の教育目標「健康明朗」「質実勤労」「自律協同」「敬愛親和」に沿って、教育活動方針を立て、新しい学校づくりを始めた。

ア 生徒理解を深めるとともに、学力向上を推進する

イ 積極的に問題解決や社会参加のできる生徒を育成する

ウ 開かれた学校づくりを推進する

この教育活動方針を教育課程に位置付けて具体化することを柱として、自らの問題を自ら

解決するとともに、地域に生きる高校生としての自覚を高め、地域社会の課題に自ら積極的に取り組む心豊かな高校生の育成を図ることを目的とした。

(2) 全体の指導計画

ア 活動の名称

「豊かな人間性や社会性の育成をめざして」

～地域との連携を踏まえて～

イ 実施学年

1 学年 ( 4 クラス 161 名 )

ウ 教育課程上の位置づけ

特別活動として位置づけた

教科・科目 ( 現代社会、生活一般、保健体育 ) との関連を図った

エ 活動計画

日 時	時 間	内 容	場 所	指 導 者
4 / 24	1 日	仲間づくり、奉仕活動	閑谷学校	本校教員
5 / 8	2 時間	地域の清掃活動	地域	本校教員、保護者
6 / 5	2 時間	講演 ( ボランティア )	本校	地域の指導者
6 / 26	2 時間	講演 ( 社会福祉 )	本校	福祉関係者
7 / 16	1 日	地域内の施設訪問	各施設	施設職員、本校教員
9 / 16	1 日	本校文化祭への招待	本校	本校教員、保護者
10 / 29	1 日	地域内の施設訪問	各施設	施設職員、本校教員
11 / 26	1 日	地域の高齢者との交流会	本校	役場職員、本校教員
12 / 17	1 日	地域内の施設訪問	各施設	施設職員、本校教員
1 / 22	2 時間	体験発表会	本校	学校支援委員、本校教員

5 活動の概要

(1) 活動の立ち上げ

体験学習の立ち上げの場として国宝である「閑谷学校」を選んだ。閑谷学校は日本で最古の庶民の学校で、岡山県の教育のシンボルとなっている施設である。「思いやりの心を持つ生徒」「地域のために貢献できる生徒」に育てほしいという願いを込めて、この施設を選定した。

(2) 活動の展開

ア 「仲間づくり」

これからの活動を、自分一人だけの問題ではなく社会全体の問題として考え、息の長

い活動にするためにコミュニケーション能力、連帯感、共助の精神などを「仲間づくり」をしていくうえでのキーワードとした。

イ 「地域の清掃活動」

ともすれば地域の活動と遊離しがちな高等学校が、地域に愛され、地域に期待される学校として成り立つためには、清掃活動などの奉仕活動を通して、高校生が地域に目を向けることは大切である。

ウ 「ボランティア講演会」・「社会福祉講演会」

ボランティア入門・福祉入門と題し、地域の方を講師として迎え、活動の意義や目的を理解するために実施した。

エ 「施設訪問」

高齢者の方との心の交流を図るとともに、その交流が一時的なものにならないためにも、一つの施設に同じクラスが3回の訪問を実施した。

訪問場所

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1組 あじさいのおか牛窓     | (特別養護老人ホーム)    |
| 2組 邑久町デイサービスセンター | (老人・障害者デイサービス) |
| 3組 邑久ナーシングホーム    | (介護老人保健施設)     |
| 4組 錦海荘           | (介護老人保健施設)     |

オ 「学校での交流」

本校の千町祭(文化祭)に施設の高齢者や地域の方を招待し、生徒との交流会を実施した。

カ 「地域の高齢者との交流会」

地域の老人クラブと連携し、ホームルーム活動に11名の地域の高齢者の方を招き、地域社会の在り方や戦争体験などについて意見交換を行った。生徒20名に対し高齢者1~2名での座談会形式で行った。

キ 「体験発表会」

「体験発表会」は、生徒が企画・運営し、プレゼンテーションにより、全体代表・クラス代表・グループ代表の発表を行った。また、学校支援委員から指導・助言をいただいた。

(3)工夫した点

ア ホームルーム活動や教科学習の中で、事前事後の指導を行い、ボランティア活動に対する意識の向上を図った。

イ 老人クラブや施設とのスケジュールを調整した。

ウ 生徒の自主性・主体性を重視し、生徒に企画・運営を担当させた。

## 6 活動の評価

### (1) 評価の観点

- ア ボランティア活動に対する関心・意欲
- イ 他者と協力し、活動しようとする態度
- ウ 活動内容の成果を表現する能力
- エ 地域・高齢者に対する理解

### (2) 評価の方法

- ア 生徒の感想やアンケート
- イ 取組の様子を観察
- ウ 体験発表会
- エ 施設や指導助言者からの講評

## 7 活動の成果

- (1) 生徒が活動することによって、高齢者や障害者から感謝の声を聞いて、生徒自身感動と喜びを体験し、豊かな表情を見せるようになった。
- (2) 高校生が地域に出て活動することが地域の活性化につながり、学校と地域との連携が一層密になった。
- (3) この活動が契機となって、教育課程や教科学習を改善し、「学校外における学修の単位」として学校設定教科「<sup>ゆう</sup>邑タイム」を設けたり、地域の人材や文化遺産を活用した日本史・美術などの校外学習ができるようになった。
- (4) 高校生との交流を通じて、地域社会の人々が、地域の将来を担う高校生に思いや願いを伝えることができたとの声を聞いた。

## 8 今後の課題

- (1) この活動を通じて、人間としての在り方生き方を考えさせ、それを進路意識の高揚に結びつけること。
- (2) ボランティア活動や校外学習などを、総合的な学習の時間と関連づけ、教育活動の総合化を図ること。
- (3) 活動の成果が開かれた学校づくりに結びついているかどうか、家庭生活にどう生かされていくのか等を検証するため、学校自己評価や学校評議員制度を積極的に活用すること。
- (4) 個々のニーズに合わせた活動ができるように計画段階から生徒を参加させ、「地域の子どもは地域で育てる」とともに、「地域を愛する子ども」を育てるため、小・中・高校生が一体となった活動ができるよう工夫すること。
- (5) ボランティア活動や校外学習において積極的な支援ができるよう、教員の指導力の向上を図ること。